

# 「文化と翻訳」をテーマに多彩な講演 文・英語英米文学科の特別総合講義



↑質問する学生

←講演する株式会社研究社の星野さん



→齋藤さん

「文化と翻訳」をテーマに学内外の識者が週替わりで講演する文学部英語英米文学科の特別総合講義。5月18、25日（木）は英和辞典で知られる出版社、株式会社研究社の星野龍さんが「辞書と翻訳のテクノロジー」と題した講演を行った。

星野さんはテッド・チャン著『あなたの人生の物語』を題材に、ChatGPTやDeepLといったAIを使った翻訳とプロの翻訳家による訳文の違いを解説。さ

らには、異なる言語を持つ異星人と人との交流を描いた作品世界に触れ、AIが言語や世界をどのように認知し、どんな未来を創り出すのかにまで話は及んだ。学生からも意見や質問が活発に出た。

全15回のこの講座を毎回受講しているという渡邊ゼミの齋藤圭吾さん（文4）は、「いろいろな講師の話から幅広い知見を得られるので、卒論を書くうえで参考になる」と話す。

## 盲導犬と歩く体験で 視覚障がいを学ぶ

盲導犬はアイマスクをした学生に通路の障害物を教えながら進む。学生が怖がって遅いと、大丈夫だからさっさと行こうよ、とばかりにグイグイ進む。

6月10日（土）に生田キャンパスで開催された「視覚障がい理解・体験講座」。盲導犬の育成などを行うアイメイト協会の牧島希さんを講師に、学生10名は盲導犬との歩行を体験したほか、盲導犬を連れた人へのサポートなどを学んだ。（同協会では盲導犬を人の目の代わりにするパートナーの意味を込めて「アイメイト」と呼んでいる。）

障がい者の感じる不便は、周りの助けで解消できることもある。受講した片浜藤馬さん（経営2）は「駅など視覚障がい者にとって困難な場もある。困っている様子を見かけたら声を掛けたい」と話す。障がい学生支援室では、このほかにも車いす体験など障がいへの理解を促す講座を多数行っている。



↑盲導犬に導かれ障害物をよけて歩く学生。右端はアイメイト協会の牧島さん

←盲導犬を連れた人の案内を実践する学生



↑片浜さん